CSCのDNSおよびSWGバックオフ設定について

内容

はじめに

前提条件

要件

使用するコンポーネント

概要

SWGのバックオフを引き起こすDNSバックオフ設定はどれか? SWGのバックオフが行われないDNSバックオフ設定はどれか?

<u>独立したSWGバックオフ設定</u>

はじめに

このドキュメントでは、Cisco Secure Client(CSC)のDNSおよびセキュアWebゲートウェイ(SWG)バックオフ設定について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco Secure Clientに基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな(デフォルト)設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

概要

2024年4月25日前後まで、Cisco Secure ClientのSWGモジュールのバックオフ動作は、DNSモジュールの状態に関係なく制御できず、SWG保護を有効/無効にするDNSバックオフ設定に依存していました。これに対処するため、UmbrellaはDNSモジュールとSWGモジュールの動作を分離し、必要に応じて独立した管理を可能にしました。これは、UmbrellaがDNSとSWGバックオフ設定を分離し、きめ細かい制御を強化したCisco Secure Clientバージョン5.1.3.62以降で使用できます。古いバージョンのクライアントは、個別のSWGモジュールのバックオフに従いませんでした。

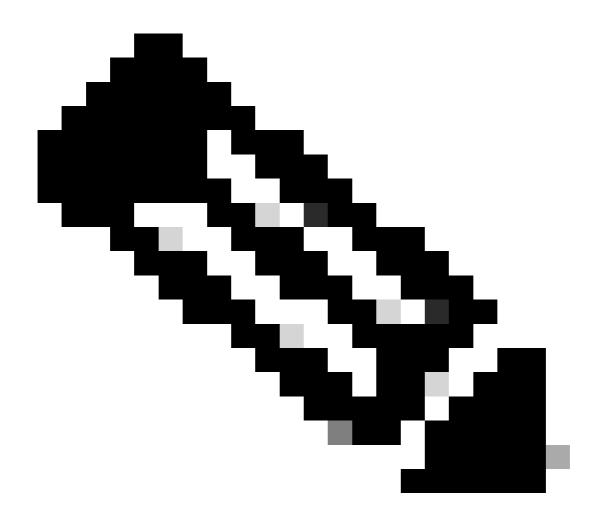
Secure Web Gateway backoff follows DNS backoff機能が有効になっている場合、CSCのSWGモ

ジュールはDNSモジュールの動作に従います。ただし、これは、すべてのDNSバックオフ設定で 発生するわけではありません。次のセクションでは、SWGモジュールが従うDNSバックオフ設定 または従わないDNSバックオフ設定について詳しく説明します。

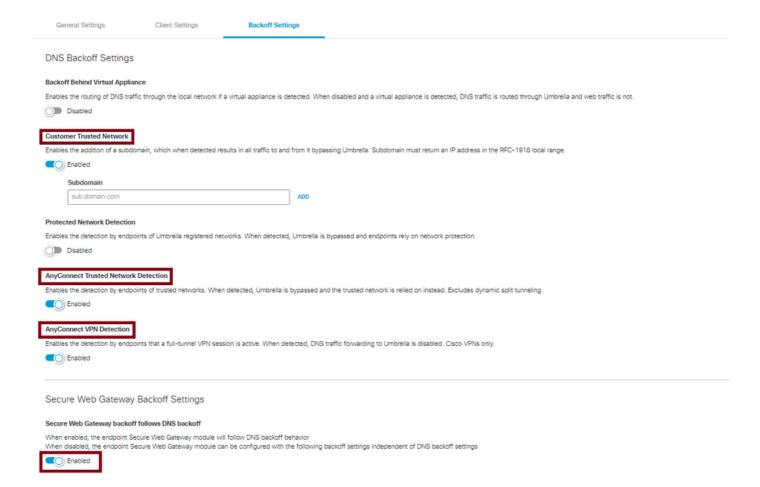
SWGのバックオフを引き起こすDNSバックオフ設定はどれか?

次のDNSバックオフ設定により、SWGはバックオフします。

- Customer Trusted Network:DNSバックオフ設定でのCustomer Trusted Networkドメインの設定は、最も簡単な方法の1つです。RFC1918アドレスに解決される内部ドメインをホストすることで、DNSとSWGの両方を同時にバックオフできます。Umbrellaのクライアントは、そのドメインを照会するようにコーディングされています。ドメインがプライベートIPアドレスに正常に解決されると、デバイスがプライベートで保護されたネットワーク上にあることが識別され、DNSモジュールがバックオフします。このバックオフメカニズムは、DNSモジュールがドメインの解決に成功した場合にも同様にバックオフできるWebモジュールでも尊重されます。
- AnyConnect信頼ネットワーク検出
- AnyConnect VPNの検出



注:DNSバックオフ設定は、5.1.3.62より前のバージョンを実行しているCisco Secure Client上では、DNSとSWGバックオフ設定を分離する前に実装されているため、引き続き機能します。

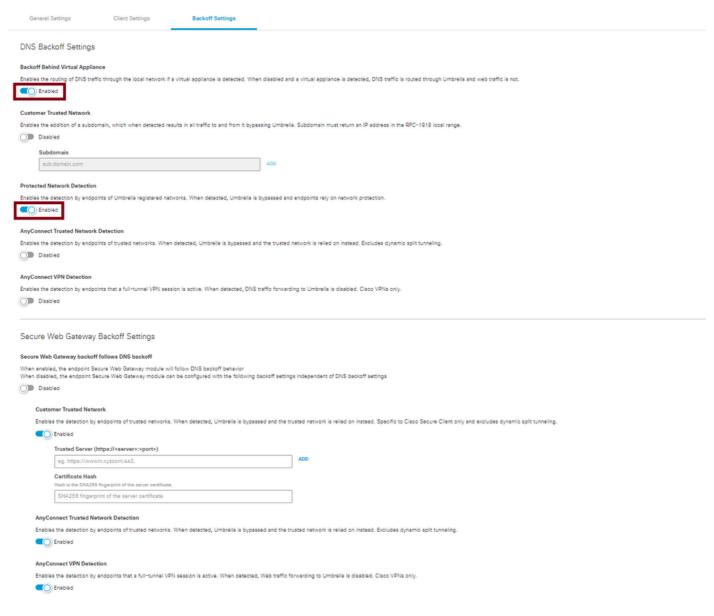


27885424859028

SWGのバックオフが行われないDNSバックオフ設定はどれか?

これら2つのDNSバックオフ機能を設定しても、SWGはバックオフしません。そのため、DNSの設定状態に関係なく、SWGバックオフ設定を選択的に設定する必要があります。これについては、次のセクションで詳しく説明します。

- 仮想アプライアンスの背後でのバックオフ: AnyConnect 4.10.07061(MR7)およびSecure Client 5.0.02075(MR2)以降では、Umbrella仮想アプライアンスが存在するネットワークで SWGモジュールを有効なままにできます。以前に仮想アプライアンスの存在に依存して特 定のネットワークでSWGモジュールとWebリダイレクションを無効にしていた場合は、代 わりにTrusted Network DomainまたはAnyConnect Trusted Network Detectionを使用できます。
- 保護されたネットワーク検出



27885587178772

独立したSWGバックオフ設定

ご使用の環境でこれらのDNSバックオフ機能が有効になっていない場合は、ここで説明する SWGバックオフ設定のいずれかを排他的に使用して、SWGを無効のままにすることができます

- お客様の信頼ネットワーク
- AnyConnect信頼ネットワーク検出
- AnyConnect VPNの検出

この新しい機能により、SWGモジュールはDNSモジュールから独立して動作できます。この機能は、バージョン5.1.3.62以降を使用しているCisco Secure Clientで使用できます。ダッシュボードで、次のいずれかの明示的なSWGバックオフトグルを設定します。

• Customer Trusted Network:オプションの1つは、SWGバックオフ設定の下でCustomer Trusted Networkオプションを使用することです。このオプションでは、クライアントがア

クセスできる内部サーバを設定し、そのサーバが保護されたネットワーク上に存在することを確認できます。Webサーバがクライアントから到達可能であることを確認し、そのサーバ上の証明書を取得し、証明書ハッシュをUmbrellaダッシュボードにコピーする必要があります。

他の2つのオプションは、VPN接続にのみ適用されます。

- AnyConnect信頼ネットワーク検出
- AnyConnect VPNの検出

Secure Web Gateway Backoff Settings
Secure Web Gateway backoff follows DNS backoff
When enabled, the endpoint Secure Web Gateway module will follow DNS backoff behavior When disabled, the endpoint Secure Web Gateway module can be configured with the following backoff settings independent of DNS backoff settings
Disabled Disabled
Customer Trusted Network
Enables the detection by endpoints of trusted networks. When detected, Umbrella is bypassed and the trusted network is relied on instead. Specific to Cisco Secure Client only and excludes dynamic split tunneling.
Enabled
Trusted Server (https:// <server>:<port>)</port></server>
eg. https://wwwin.xyzcom:443.
Certificate Hash
Heah is the SHA288 fingerprint of the server certificate.
SHA258 fingerprint of the server certificate
AnyConnect Trusted Network Detection
Enables the detection by endpoints of trusted networks. When detected, Umbrells is bypassed and the trusted network is relied on instead. Excludes dynamic split tunneling.
■ Enabled
AnyConnect VPN Detection
Enables the detection by endpoints that a full-tunnel VPN session is active. When detected, Web traffic forwarding to Umbrella is disabled. Cisco VPNs only.
English

27886005743764

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版(リンクからアクセス可能)もあわせて参照することを推奨します。